

霧ヶ峰基金会報

2011年5・6月号(通算41号)

発行：特定非営利活動法人 霧ヶ峰基金

〒393-0024 長野県諏訪郡下諏訪町五宮 6371 番地 3 ハイツルミエール A 棟 102号

TEL 090 9668 3380

e-mail kirigamine.kikin@gmail.com

URL <http://kirigamine-fund.jp>

ブログ 「霧ヶ峰のWA!」 <http://blog.canpan.info/kirigamine-wa/>



今年再び、もえいずる春

写真は2009年の春、踊場湿原北側で行われた「火入れ」です。

今年の春は、霧ヶ峰インターチェンジから踊場湿原方面にかけて20ヘクタールの火入れが行われます。今回の規模は過去最大になるもよう、この写真を上回る光景が展開されると思われます。

いつまでも、広くなだらかな草原が続く霧ヶ峰を願って。

モニタリング調査を再開 & アシスタント募集！

さて、今年も「八島ヶ原湿原外周」を歩くモニタリング調査を5月から再開します。調査は環境省が作成したマニュアルにそって行い、一般の方でもおこなえる平易な方法となっています。今年度も継続して以下の2つの項目、そして今年度から「人為インパクト」についても着手します。

- ・「植物相調査」.....歩道に沿って歩きながら、つぼみや花・種子をつけている植物名を記録していきます。
- ・「水環境」.....水温やpHなどの水質を記録します。
- ・「人為インパクト」...航空写真などから相観植生図を作成し、人の活動の影響を記録する。
調査予定は別表のとおりです。

これらの調査に関しまして、アシスタントをしていただける方を募集しています。「100年先まで続く調査に参加したい。」「花の名前を覚えたい、暮らしぶりを知ってみたい」「健康のために」などなど、我こそはと思う方は事務局まで、ご連絡をお願いいたします。



2011年度調査予定

調査予定日	予定時間	項目
5月21日(土)	8:30～午前中	植物相、水環境
6月25日(土)	6:00～午前中	植物相、水環境
7月9日(土)	6:00～午前中	植物相、水環境
8月20日(土)	6:00～午前中	植物相、水環境
9月17日(土)	6:00～午前中	植物相、水環境
10月22日(土)	9:00～午前中	植物相、水環境
11月5日(土)	9:00～午前中	水環境

- ・天候や道路状況により、変更または中止する場合があります。
- ・集合場所や持ち物、注意点などは参加される方に個別にご連絡を差し上げます。
- ・人為インパクトについてはお問い合わせください。

(担当：小原宏文)

【報告】公園管理団体設立WGに参加しています。

長野県や地元関係者で構成される「霧ヶ峰自然環境保全協議会」では、2010年の協議会において「霧ヶ峰の自然の保全再生のための対策をはじめとする霧ヶ峰における事業の本格的展開のためには、しっかりとした組織・人員を備えた事務局が必要であり、このため、事務局を担う団体として想定される公園管理団体の設立について検討していく必要がある」と合意されたことにより、公園管理団体設立に向けた諸課題を検討す

るためのワーキンググループ(WG)を設置することになりました。

昨年11月、霧ヶ峰基金にも霧ヶ峰自然環境保全協議会より、公園管理団体設立検討ワーキンググループの助言者としての参加要請をいただき、2010年11月より参加をしています。

これからの動向については、会報等でご紹介していきたいと思っております。

メモ

ワーキンググループ(WG)は、地権者、自治会・観光・運輸、自然保護団体等、学識経験者、行政関係者等17団体で構成するワーキンググループと、霧ヶ峰基金、霧ヶ峰雑木やつつけ隊、霧ヶ峰ビジターセンター連絡会等助言者3団体で構成されています。

2010年度活動報告書ができました。

2010年度の活動報告書ができました。

今年の活動を振り返り、A4フルカラー9ページでまとめています。

会員の皆様には本会報とともに同封いたしました。

残部が若干ございます。複数ご希望の方は事務局までご連絡をください。



*この活動報告書は長野県地球温暖化防止活動推進センターの「平成22年度地球温暖化防止活動実践普及事業補助金」により制作いたしました。

年会費納入のお願い

調査活動や登山道の巡回調査、エコツアーの開催、オリジナルグッズ製作など、NPO法人霧ヶ峰基金の多彩な活動は会員の皆様の会費により支えられています。

会員の皆様には別刷りでお知らせを同封しておりますので、お手続きをどうぞよろしくお願い申し上げます。



なお、一緒にフィールドで活動して下さるボランティア運営スタッフも若干名募集しております。

主な業務：植物相調査スタッフ、ガイド、会報製作・発送、オリジナルグッズ製作など

どうぞ、あなたの知恵と力をお貸しください。

詳細は事務局（担当：ふりはた）までお問い合わせをお願いいたします。

事務所移転のお知らせ

2011年3月1日付で、下記に事務所を移転いたしました。

〒393-0024 長野県諏訪郡下諏訪町五官 6731-3

ハイツルミエール A棟 102号

電話番号に変更はございません。

ご訪問の際は、必ず事前にお電話か電子メールでお問い合わせいただけますよう、お願い申し上げます。

【お詫び】前号に掲載した住所に誤りがございました。正しくは本号記載の住所です。

活動記録（2011年1月1日～2月28日）

1月	10日	・初もうで（旧御射山神社）
	31日	・会報2011年2・3月号発行
2月	6日	・理事会開催
	13日	・臨時総会開催（住所移転に伴い）

編集後記 このたびの大震災におきまして、被災された方には心よりお見舞い申し上げます。

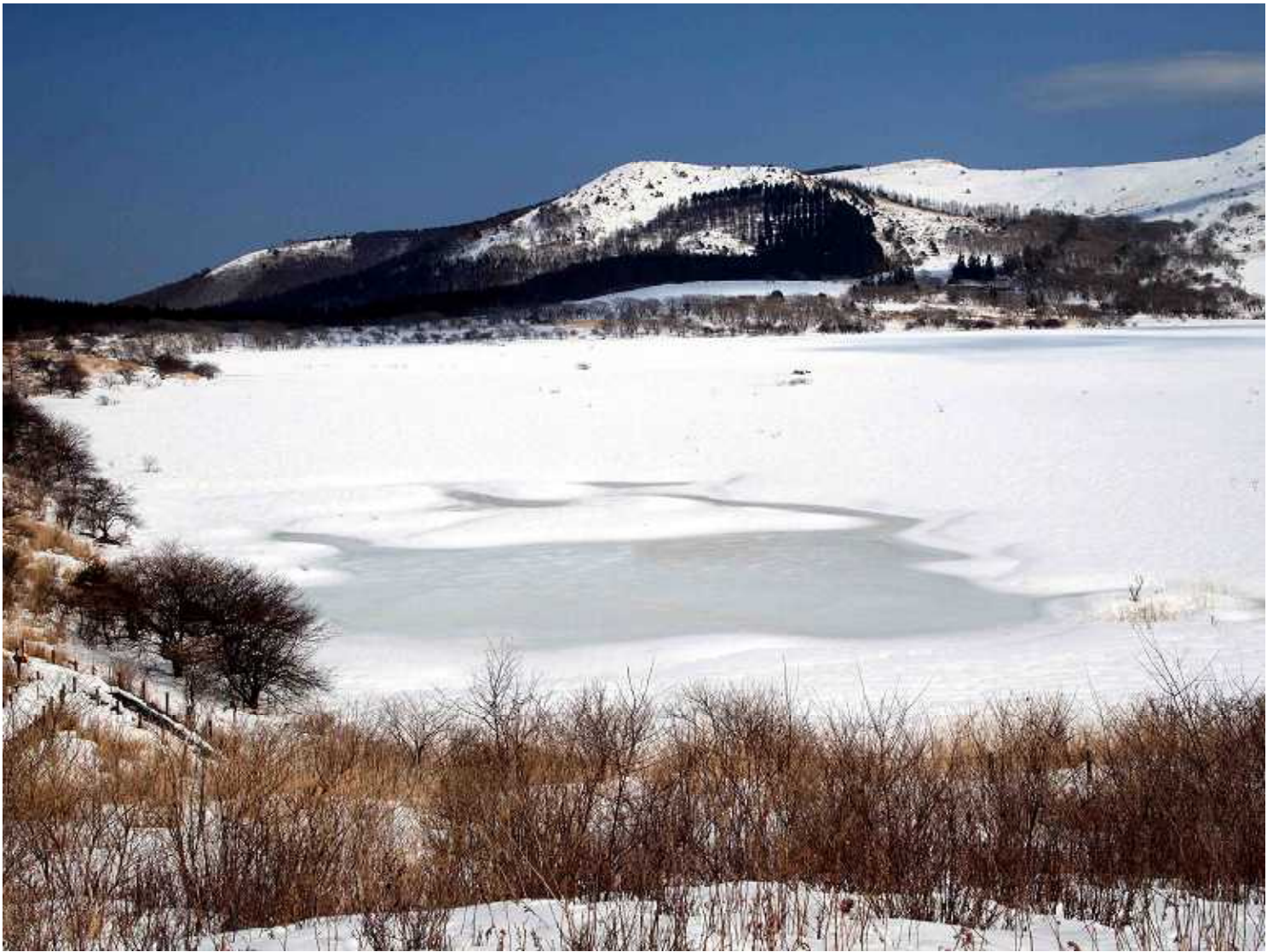
連日報道された被害のあまりの大きさには言葉もなく、お身内や親しい人を亡くされた方や避難所で過ごされる方々の苦難やご心痛はいかばかりかと胸のえぐられるような思いです。

諏訪にいてもできることは何だろうと、友人と毎日少しずつ募金をしたり物資を買い込まないことや必要以上の自粛をしないこと、節電の意味や今までの私たちの暮らし方やこれからの暮らし方について話し合ったりしています。ひとりひとりの活動は微々たるものかもしれませんが、集まればきっとたくさんの人の支えになれると願っています。

どうか一日も早くすべての人が日常を取り戻されますよう、心よりお祈り申し上げます。（か）

次号会報2011年6・7号は2011年5月下旬ころ発行予定です。

三月の八島ヶ池



三月の霧ヶ峰高原はまだ雪と氷の世界です。

八島ヶ原湿原の顔でもある八島ヶ池も、水面はシャーベット状態でした。

八島ヶ池、雪原、青空を眺めていると、ひと際、穏やかな気持ちになります。静かなことと、空気が澄んでいることも手伝っているかもしれません。

夏の降水は雨としてそのまま湿原へ沁み込みますが、冬の降水は雪として湿原に積もり、融けない限りなかなか地下浸透していきません。

そのため高層湿原を構成している、ミズゴケや泥炭は、冬の間、水分の供給がないため乾燥状態にあると言われています。イメージとしては乾いたスポンジです。

そして雪が融けると、スポンジが水を吸い込むが如く湿原内に融雪水が流れ込み、再び緑の芽吹く湿原になります。

この自然のスポンジは面積約 72 ヘクタール、厚さは約 8 メートルですが、この規模のスポンジを人間が作るのは無理ではないでしょうか。

自然がつくった八島ヶ原湿原の巨大なスポンジには驚くばかりです。

【参考文献】

小松輝行、小原宏文(1994)小清水原生花園内の馬放牧湿原における地下水位と植生の関係 北海道草地研究会報

小松輝行、砂子澤正明(1994)小清水原生花園における砂丘および湿原の植生と積雪・土壌凍結分布との関係 北海道草地研究会報

泥炭の堆積は 1 年で約 1 ミリメートルといわれ、堆積した年数は約 1 万 2 千年分と推定されています。(泥炭は自重でつぶされているため、高さは約 8 メートルとされています。)また、八島ヶ原湿原は高層湿原の南限として有名ですが、これは周年を通して冷涼な気候ゆえに今日まで湿原が維持されてきたためと言われています。

もし温暖化が進むと、泥炭の分解が進み高層湿原の維持はだんだんと困難になり、この貴重な湿原は失われしまうことでしょう。

湿原の維持には温暖化防止が必要かもしれません。

冬の八島ヶ原湿原を見て、ふと、思ったことです。

雪を見て思い出すことがもう一つ。

「雪が融けると何になる？」と学校の先生に聞かれ、ほとんどの友人が「水になる」と答える中、私ひとりが「春になる」と答え、先生を驚かせたことです。もう遠い昔の話になります。

暦では春分を過ぎましたが、八島ヶ原湿原の雪が融けて「水」と「春」になるのはもうしばらくかかると思います。

(小原宏文)